

令和 2 年 6 月 15 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2017～2019

課題番号：17H04539

研究課題名(和文) グローバルなアジェンダとなった月経のローカルな状況の比較研究

研究課題名(英文) A Comparative Study on Local Situations Surrounding Menstruation that Became a Global Issue

研究代表者

杉田 映理 (SUGITA, Elli)

大阪大学・人間科学研究科・准教授

研究者番号：20511322

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、国際開発の支援の対象となった月経を取り巻く現状について、女性人類学者8名がカンボジア、インドネシア、インド、パプアニューギニア、ニカラグア、ケニア、ウガンダそれぞれのフィールドで現地調査を実施し、学校や女子生徒、NGO、政府機関の関係者からの聞き取りを通して、実態を把握した。

女子生徒の月経対処に焦点を絞り、多様な地域の比較研究を行ったことで、月経観(月経がどのように捉えられているか)、宗教や文化とのつながり、月経対処の方法と設備、月経教育など、文脈による違いとその一方で共通性が明らかになった。研究成果は、学会発表、学会誌の特集、ホームページ等で発信し、本の出版も予定している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的意義：月経をめぐる文化変容が進行形の中、対象地のローカルなリアリティを捉えた。また、比較研究を通じて、現代の女子生徒の月経を形作る視座を把握することができた。

社会的意義：女性(特に女子生徒)の月経対処が、国際開発のアジェンダとなり支援の対象となる中、国際開発の大きな方針を实践する際に、おなじ「月経」という生物学的女性共通の生理現象であっても、社会的・文化的な文脈、女子生徒たちの実践は大きく異なるため、現場に入り込み、現地の人々の声を丁寧に拾い上げ、ローカルな文脈を読み解くことでこそ、現地の人々の置かれている状況に寄り添った支援が可能となることを示した。

研究成果の概要(英文)：Menstruation, which at first seems to be a private matter of girls and women, has become a part of the global agenda in international development. The issue has a label “menstrual hygiene management (MHM)” and involves various stakeholders. The objective of this research was to capture the influence of MHM assistance (or lack of), and understand the local realities of adolescent school girls in eight different areas based on fieldwork. The case studies included Cambodia, Indonesia, India, Papua New Guinea, Nicaragua, Kenya and Uganda.

The comparative research revealed the differences in local contexts as well as some similarities in the perception of menstruation, its connection with religion and culture, articulation and infrastructure of menstrual management, and menstrual education. The results were published in journals, and presented at academic conferences and on the project's homepage. A book will be published based on this research.

研究分野：文化人類学

キーワード：月経 国際開発 文化人類学 ジェンダー 衛生 ローカル 文脈 MHM

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

2015年に国連「ミレニアム開発目標」の期限年限を迎えた国際社会は、次なる目標として「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」を2016年よりスタートさせた。その目標の検討過程において、衛生改善の際に女性の月経に配慮することを含めるべきだとの議論になった。最終的に「月経対処」という文言はSDGsの中に含まれなかったものの、「衛生改善の際に、特に女性に配慮し」という表現を以って月経への対処が実施的には国際的な課題として掲げられることになった。(なお、現在はSDGs目標6の衛生の指標として月経対処が含まれている。)

すでに月経衛生への対処をMHM(Menstrual Hygiene Management)と呼ぶ略称も開発業界では定着をいしはじめ、UNICEFやNGOが月経教育や布ナプキンの開発・普及を試みている。ウガンダなど一部の政府では、教育省がNGOの働きかけに呼応する形で、月経教育の推進や学校のトイレを月経に対処しやすいものにするを政策化している。これは特に、思春期の(つまりは初潮を迎えた)女子生徒の学校出席率がトイレの改善によって向上するというデータ(例えば、タンザニアのある地域では学校のトイレの改善によって女子の出席率が12%も向上した[UNDP 2012])があり、女子の就学率の向上、ジェンダー平等化の観点からMHMが開発実施機関から重要視されているのである。また、女性のリプロダクティブ・ヘルスの健康保持の観点からも、MHMが注目されている。

その一方で、月経の捉えられ方、対処のされ方には、非常にローカルな慣習がある。つまり、女性たちは、月経に与えられる文化的・社会的なローカルな価値観に沿うかたちでそれを経験する。さらに、月経をケガレと結びつけて捉える社会は多く、女性特有の生理現象であることから男性からは隠された領域とされていることも多い。

これまで文化人類学者は、月経をめぐるローカルな文脈について研究を重ねてきた。日本においても月経が出産とともにケガレとされ、月経中の女性を月経小屋に隔離して生業活動からも遠ざける習俗が、地方によっては比較的近年まで存在したことが報告されている[波平 2009]。現在も、たとえばインドの農村部で月経中の女性がヒンドゥー教の寺院へ参拝に行くことや儀礼にかかわることが厳しく禁じられている[松尾 2007]など、多くの社会で月経中の女性や経血をめぐるタブーは色濃く残っている。しかし、新本[2013]がパプアニューギニアにおいて観察したように、2000年代初め、月経小屋が使われなくなった時期と、月経対処用の紙ナプキンが普及しはじめた時期が重なっており、物質文化の変化が社会に変化をもたらしている様子もうかがえる。その社会では、これまでコミュニティ内で月経中である女性が誰か、月経小屋の利用によって公然の事実であったものが、紙ナプキンの利用によって隠された領域になりつつあるという。近代化が進む中で、月経にまつわるローカルな慣習が消滅するのではなく、むしろ強化されるかたちでいびつに医療化が進む事例も観察されている[松尾 2007]。

このように、月経をめぐる状況は、月経が開発課題とされたことに加え、民間企業(主にグローバル企業)が月経用品のマーケットを拡大させていることにより、世界的に大きく変化しつつある局面にある。とくに、伝統的な慣習が強く残る地域は、開発支援や市場の主要な対象とされており、月経を巡る事象は文化変容のうねりの中にあると言える。

2. 研究の目的

本研究では、月経衛生対処(MHM)がグローバルなアジェンダとなり、国際開発の支援の対象となっていることをふまえ、支援の対象とされる世界の途上国の各地の月経を取り巻く現状をローカルな文脈に即して捉えることを第一の目的とした。さらに、各地の現状を比較検討し、国際的なアジェンダとして政策や新しいプログラムが策定されることによる影響や配慮されるべき点を考察することを目的とする。

3. 研究の方法

SDGsが開始して間もない「今」の世界各地の現状を同時期に捉えるために、現地調査は最初の2年度(2017年度、2018年度)で遂行した。アジア(インド、インドネシア、カンボジア)、大洋州(パプアニューギニア)、アフリカ(ケニア、ウガンダ)、中南米(ニカラグア)の状況を比較検討するために、それぞれのフィールドに精通した女性文化人類学者が、現地においてフィールドワークを行った。

調査対象者は、女子生徒、教員、地域住民、MHMに携わるNGO、政府関係者、月経用品を販売する売店の店員などである。調査手法は、参与観察に加え、対象者に応じて非構造化インタビュー、半構造化インタビュー、質問票調査、フォーカス・グループ・インタビューなどが選択された。

また、共同研究を推進させるために、初年度は5月にまずキックオフミーティングを実施して研究のフレームや出版に向けての方針等を確認した。メンバー間でのメーリスの設置、クラウド機能を利用して研究関連資料や科研関連の資料の共有を図ることが合意され、最終年度に至るまで有効活用された。初年度の各々のフィールドワークの結果の共有と、今後の研究方針の協議のために2018年3月に、研究成果の共有と今後についてディスカッションを行うために、2泊3日の合宿方式で会合を実施した。

2年目の2018年度も、各研究者フィールドワークでデータ収集をする一方、8月(研究代表者と副代表者のみ打合せ)、11月(夏のフィールドワークの結果を共有し、次年度の学会の分科会申請などについて協議)、2月(日本の生理休暇についての研究者を招聘しての勉強会)を行い共同研究者間の議論を通じた知見の共有を図った。

3年目(最終年度)は、成果発信に主眼を置いて、国際学会を含めて各人で成果発表を行うとともに、共同研究者がメンバーとなって文化人類学会および国際開発学会研究大会にて分科会を持ち、国際

開発学会の学会誌で特集を組んだ。共同研究者が共に発信をする場を持ったことで、その場自体が共同研究者間の議論やレビューの機会となった。その他、最終年度には、日本の生理用ナプキンのメーカー訪問、男性研究者を招聘しての男性の月経観に関する研究会を開催するなど、オンラインも含めると5回の研究会・研究打合せを実施し、実質的な共同研究となるようにした。

4. 研究成果

本研究では、国際開発の支援の対象となった月経を取り巻く現状について、女性人類学者8名がカンボジア、インドネシア、インド、パプアニューギニア、ニカラグア、ケニア、ウガンダそれぞれのフィールドで現地調査を実施し、女子生徒の月経対処に焦点を絞り、比較研究を行った。その結果、月経をめぐる状況の通文化性と、地域による特異性が表出した。また、この比較研究を通して、現在的女子生徒たちの月経の経験を生作る社会的側面は、大きく以下の4つに分けられることが理解された。

一つは、月経観である。すなわち、月経がどのように捉えられているかである。その月経観によって、タブーや初潮儀礼などの慣習が実践され、また隠語などが生まれる。ただし、宗教や文化とつながった伝統的な観念が固定化されて社会に存在するのではなく、MHMの波や学校教育の影響で、月経観、タブー、また月経を恥ずかしいと思う感覚なども変化してきている様子が伺える。これまでの「月経は隠すべき」という月経観をあえて突き破ることで、女性の尊厳をアピールする若者の動きもある。

次に、月経教育、あるいは月経について何をどう教わるかということである。月経教育と月経観は互いに影響し合いながらも同じものではない。そもそも初潮前に月経について知識を得ていない女子生徒たちも多にいる。学校での月経教育は、国によって異なる科目で教えられており、理科、家庭科、宗教などがあった。一方、NGOなどが啓発活動を行い、NGOによってMHMの重要性を訴える、避妊などの結び付ける、あるいは最適なライフスキルと結びつけるなど、力点が異なる。

三つめは、月経対処を行うための物質的側面とそれを扱う知恵である。経血を吸収するための物質は、使い捨て紙ナプキン、再利用可能な布ナプキン、古布以外にも、地域によってさまざまなものがあり、またその利用のされ方、廃棄のされ方も月経観と結び付いて地域によって多様である。さらに、ナプキン等を交換する場、廃棄する(あるいはできない)場としてのトイレやごみ箱、手洗い場等の設備状況も、「月経の経験」に大きく影響していた。

最後に、月経をめぐる政治・経済的な文脈という側面である。グローバルなMHMの波が広がっている状況下でも、月経に関する政策は国によって異なり、政府や開発支援機関によるMHMへの介入状況も差がある。またそもそもの対象地域の貧困度の状況によっても、個人の経験は異なったものとなる。以上のように、本研究では、各地域の文脈に沿ったローカルな実態について詳細を把握できたのみならず、比較研究を通じて、現代の女子生徒をめぐる月経を考える際の視座を得ることができた。また、おなじ「月経」という人類共通の生理現象であっても、社会的・文化的な文脈、女子生徒たちの実践は大きく異なるため、開発支援の際は現場に入り込み、現地の人々の声を丁寧に拾い上げてローカルな文脈を読み解くことでこそ、現地の人々の置かれている状況に寄り添った支援が可能となることを示した。

研究成果は、本科研サイトで報告したように、論文や学会発表、書籍の一部で発表したほか、一冊の本として出版予定であり、出版社と準備をしているところである。また、新型コロナ禍で延期となってしまったが、国際開発援助の実施機関におけるセミナーも実施を予定しており、研究結果を開発実践にも還元したいと考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計24件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 10件）

1. 著者名 新本万里子	4. 巻 83-1
2. 論文標題 生理用品の受容によるケガレ観の変容 パプアニューギニア・アベラム社会における月経処置法の変遷から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『文化人類学』	6. 最初と最後の頁 25-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14890/jjcanth.83.1_025	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sato Mine	4. 巻 29
2. 論文標題 Is development studies becoming too brainy? A comparison of World Development Reports	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Development in Practice	6. 最初と最後の頁 220 ~ 229
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/09614524.2018.1538321	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松尾瑞穂	4. 巻 22
2. 論文標題 公的経験を支える家族ネットワーク 西インド高齢女性のライフストーリーから	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 多民族社会の宗教と文化	6. 最初と最後の頁 33-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新本万里子、山本幹雄、坂本晶子、山崎恵理、服巻豊、吉原正治	4. 巻 35
2. 論文標題 大学における『性同一性障害』のある学生への合理的配慮の検討	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 総合保健科学	6. 最初と最後の頁 23-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/47334	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菅野美佐子	4. 巻 22
2. 論文標題 インド独立以来以降の下層民における暮らしの変化 - ワーラーナシーのチャマル女性のライフヒストリーを手がかりに	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 多民族社会の宗教と文化	6. 最初と最後の頁 19-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菅野美佐子	4. 巻 No.20
2. 論文標題 「親密圏と公共圏のはざまにある仕事 - 北インド農村の女性の暮らしと福祉事業 - 」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『多民族社会における宗教と文化』	6. 最初と最後の頁 3-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kanno, Misako	4. 巻 0
2. 論文標題 “Dynamics of working Housewives in Contemporary Rural Uttar Pradesh ”	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Women's Work in South Asia in the Age of Neo-Liberalism. The Center for South Asian Studies (FINDAS), Tokyo University of Foreign Studies	6. 最初と最後の頁 9-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新本万里子	4. 巻 6月号
2. 論文標題 「編み込まれた記憶 パプアニューギニアの網袋製作から」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『月刊みんぱく』	6. 最初と最後の頁 18-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉田 映理	4. 巻 28
2. 論文標題 月経衛生対処 (MHM) の開発支援および研究の動向	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国際開発研究	6. 最初と最後の頁 1~17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.32204/jids.28.2_1	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 秋保 さやか	4. 巻 28
2. 論文標題 現代カンボジア農村における月経をめぐる規範と実践	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国際開発研究	6. 最初と最後の頁 19~33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.32204/jids.28.2_19	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 新本 万里子	4. 巻 28
2. 論文標題 パプアニューギニアにおける月経衛生対処に関わる教育と女子生徒たちの実践	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国際開発研究	6. 最初と最後の頁 35~49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.32204/jids.28.2_35	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小國 和子	4. 巻 28
2. 論文標題 インドネシアの女子中学生にみる月経対処/管理の実態と「正しい知識」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国際開発研究	6. 最初と最後の頁 51~65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.32204/jids.28.2_51	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤 峰	4. 巻 28
2. 論文標題 ティーンの月経をめぐる大きな文脈と小さなやりくり	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国際開発研究	6. 最初と最後の頁 67～81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.32204/jids.28.2_67	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Akiho, Sayaka	4. 巻 4(1)
2. 論文標題 HOW "KHMER PRODUCT" IS MADE THROUGH DEVELOPMENT PROCESS: FOCUSING ON CHANGING THE VALUE OF AGRICULTURAL PRODUCTS IN CONTEMPORARY CAMBODIA	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Asian Rural Studies	6. 最初と最後の頁 71- 87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://dx.doi.org/10.20956/jars.v4i1.1828	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Akiho, Sayaka	4. 巻 -
2. 論文標題 Growing Khmer Products: Food Identities and Safety in Times of Globalization	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Proceedings of The 2020 Annual Meeting of the Society for Applied Anthropology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉田 映理	4. 巻 2019
2. 論文標題 政策課題となり政治化されたMHMと農村部における月経観の変化	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本文化人類学会研究大会発表要旨集	6. 最初と最後の頁 B18～
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.14890/jasca.2019.0_B18	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 椎野 若菜	4. 巻 2019
2. 論文標題 東アフリカにおける月経観と月経にかんする教育事情	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本文化人類学会研究大会発表要旨集	6. 最初と最後の頁 B19 ~
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.14890/jasca.2019.0_B19	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 新本 万里子	4. 巻 2019
2. 論文標題 パプアニューギニアにおける月経をめぐる言説と女性たちの実践	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本文化人類学会研究大会発表要旨集	6. 最初と最後の頁 B20 ~
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.14890/jasca.2019.0_B20	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 菅野 美佐子	4. 巻 2019
2. 論文標題 北インド農村における月経をめぐる観念と実践に関する一考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本文化人類学会研究大会発表要旨集	6. 最初と最後の頁 B21 ~
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.14890/jasca.2019.0_B21	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉田映理	4. 巻 -
2. 論文標題 月経衛生対処 (MHM) の開発支援の波と「現場」における月経対処	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『国際開発学会&人間の安全保障学会 2019共催大会 大会論文集』	6. 最初と最後の頁 576 -581
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秋保さやか	4. 巻 -
2. 論文標題 カンボジア農村における月経をめぐる実践はいかに変容しているか クメール女性のライフコースに着目して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『国際開発学会&人間の安全保障学会 2019共催大会 大会論文集』	6. 最初と最後の頁 582 -585
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新本万里子	4. 巻 -
2. 論文標題 パプアニューギニアにおける月経衛生対処に関わる教育 と女子生徒たちの実践 月経のケガレと羞恥心をめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『国際開発学会&人間の安全保障学会 2019共催大会 大会論文集』	6. 最初と最後の頁 657 -662
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小國和子	4. 巻 -
2. 論文標題 インドネシアの女子中学生にみる月経対処 / 管理の実態と「正しい知識」 学校教育とイスラーム規範に着目して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『国際開発学会&人間の安全保障学会 2019共催大会 大会論文集』	6. 最初と最後の頁 586-589
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤峰	4. 巻 -
2. 論文標題 ティーンの月経をめぐる大きな文脈と小さなやりくり 「もうひとつのニカラグア」での月経衛生調査を通じて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『国際開発学会&人間の安全保障学会 2019共催大会 大会論文集』	6. 最初と最後の頁 590-593
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計53件（うち招待講演 7件 / うち国際学会 11件）

1. 発表者名 杉田映理
2. 発表標題 ライフステージの変化が触媒となるフィールドとの繋がり
3. 学会等名 国際開発学会 第29回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小國和子
2. 発表標題 農村フィールドワーカーの生活設計と開発アクターとしての「よりよい生活」の模索
3. 学会等名 国際開発学会 第29回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 杉田映理
2. 発表標題 医療人類学の質的研究からの示唆 - ウガンダ農村における調査より
3. 学会等名 国際保健医療学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 杉田映理
2. 発表標題 月経をめぐる生理現象、文化的慣習、開発課題の狭間で
3. 学会等名 第21回人間科学セミナー
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 新本万里子
2. 発表標題 網袋の商品化と女性たちの仕事観 パプアニューギニア、東セピック州ワサラ・ガウィ地区の事例から
3. 学会等名 日本文化人類学会第52回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sayaka Akiho
2. 発表標題 How Khmer product is made through development process: Focusing on changing the value of agricultural products in contemporary Cambodia
3. 学会等名 The 6th International Conference of Asian Rural Sociology Association (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 秋保さやか
2. 発表標題 贈与と交換の狭間の開発支援－カンボジアにおけるNGOの社会的企業化の事例から－
3. 学会等名 国際開発学会 第29回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 椎野若菜、藤元敬二、にのみやさをり
2. 発表標題 アフリカの生/性について、文化人類学と写真表現
3. 学会等名 アラカワ・アフリカ × FENICS 公開講座
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 椎野若菜
2. 発表標題 村落と都市の女性：ケニアの「ハウスガール」事情
3. 学会等名 TUFSSシネマトーク
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Wakana Shiino
2. 発表標題 The House girl by choice or the circumstances in Kenya and Uganda
3. 学会等名 International Symposium on "African Potentials and the Future of Humanity" at Kyoto University (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Mine Sato
2. 発表標題 Nation and Body: Influences of larger contexts on daily menstrual hygiene management (MHM) practices of Indigenous Miskitu girls in, Waspam, Nicaragua
3. 学会等名 Society of Applied Anthropology Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松尾瑞穂
2. 発表標題 ジェンダー化された身体の被傷性 インドにおけるリプロダクションと人工妊娠中絶
3. 学会等名 日本文化人類学会第52回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松尾瑞穂
2. 発表標題 西インドの高齡女性にみる親密圏とネットワーク：新たなエイジングの模索
3. 学会等名 宮城女子学院大学キリスト教文化研究所研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mizoho Matsuo
2. 発表標題 Surrogacy and gamete donation: Rethinking blood relations through ARTs in India
3. 学会等名 2018年度第1回RINDAS/MINDAS/KINDAS研究グループ2共催国際セミナー “The Fragmented Body and Corporeal Reality in Contemporary India”
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mizoho Matsuo
2. 発表標題 Politics of Progeny and Eugenics in India
3. 学会等名 Workshop on Progeny and Eugenics in Indian Context
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mizoho Matsuo
2. 発表標題 The formation of Class identity in Modern Maharashtra: Debate on Eugenics, Sexuality and Birth control
3. 学会等名 日本南アジア学会第31回全国大会（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mizoho Matsuo
2. 発表標題 Imagined relatedness: corporeal reality in third-party assisted reproductive technologies (ARTs) in Western India
3. 学会等名 Seminar of Centre for South Asia Studies, University of Edinburgh (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mizoho Matsuo
2. 発表標題 Medical Termination of Pregnancy and Female Infanticide in India
3. 学会等名 第74回歴史人口セミナー
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松尾瑞穂
2. 発表標題 インドの子育て 授乳編
3. 学会等名 第530回民博ウィークエンドサロン
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Misako Kannno
2. 発表標題 Rethinking Generational Differences: Women 's Social Participation in Contemporary Rural
3. 学会等名 25th European Conference on South Asian Studies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 SHIINO Wakana
2. 発表標題 " 'Family' Circumstances Supported by House Girl in Nairobi"
3. 学会等名 International symposium "Family Transformation in Rapidly Developing Asia-Africa Societies Faced with Economic Disparity, Urbanization and War" (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 SHIINO Wakana
2. 発表標題 "House girl and ' family ' in Nairobi"
3. 学会等名 SPS Uganda-Japan Bilateral Joint Research Project, The Study meeting for JSPS Uganda-Japan Bilateral Joint Research Project : Diversification and Reorganization of ' Family ' in Uganda (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 椎野若菜
2. 発表標題 「アフリカにおける結婚制度の今：ケニアにおける一夫多妻制・代理夫」
3. 学会等名 めぐるシティカレッジ(目黒区生涯学習) 「世界は今！ 異文化理解のためにー」(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 椎野若菜
2. 発表標題 「子連れフィールドワークの調査スタイル：現地の幼稚園にいれてみる」
3. 学会等名 北海道大学 低温科学研究所、人材育成本部女性研究者支援室共同プログラム(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 椎野若菜・座馬耕一郎
2. 発表標題 「サルをみる、ヒトをみる ヒトとサル、親と子、そしてベッド」
3. 学会等名 エンサイクロペディア・シネマトグラフィカ連続上映（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 椎野若菜
2. 発表標題 「女性の人生選択の現実に直面する：東アフリカ・ケニア村落にて」
3. 学会等名 FENICS EVENT 「フィールドで/教室で社会問題と出会う」（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 菅野美佐子
2. 発表標題 「家族のなかの私 北インド農村における女性の仕事とアイデンティティ形成」
3. 学会等名 MINDAS「南アジアにおける社会変動と親密圏班」第1回研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kanno, Misako
2. 発表標題 “Negotiating with destiny: Rural development and women's agency in neo-liberal India”
3. 学会等名 日本学術振興会二国間交流事業協同セミナー「南アジアと日本の文脈から展望する現代南アジアの宗教と日常性に関する調査研究」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kanno, Misako
2. 発表標題 “Negotiating with destiny: Rural development and women's agency in neo-liberal India”
3. 学会等名 ICSSR-JSPS Seminar “Everyday Lives of Gender and Religious Aspect” (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 秋保さやか
2. 発表標題 「自律と依存の狭間で生きるクメール農民 -カンボジア農村における支援の場に目して-」
3. 学会等名 日本国際文化学会、第16回全国大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小國和子
2. 発表標題 「農村生活改善にみる生活の見直しの行く末」
3. 学会等名 国際開発学会第28回全国大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 SUGITA Elli
2. 発表標題 "Menstrual hygiene management for promoting adolescent health"
3. 学会等名 The 7th Annual Course on School Health and Nutrition Programmes in Asia (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 杉田映理
2. 発表標題 政策課題となり政治化されたMHM と農村部における月経観の変化 - ウガンダの事例から
3. 学会等名 日本文化人類学会 第53回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 椎野若菜、カルシガリラ・イアン
2. 発表標題 東アフリカにおける月経観と月経にかんする教育事情 - ケニアとウガンダの事例から
3. 学会等名 日本文化人類学会 第53回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 新本万里子
2. 発表標題 パプアニューギニアにおける月経をめぐる言説と女性たちの実践 - 保健教育を受けた世代に焦点をあてて
3. 学会等名 日本文化人類学会 第53回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 杉田映理
2. 発表標題 月経衛生対処 (MHM) の開発支援の波と『現場』における月経対処
3. 学会等名 国際開発学会・人間の安全保障学会 合同研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 秋保さやか
2. 発表標題 カンボジア農村における月経をめぐる実践はいかに変容しているか クメール女性のライフコースに着目して
3. 学会等名 国際開発学会・人間の安全保障学会 合同研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 菅野美佐子
2. 発表標題 北インド農村におけるケガレと月経処理をめぐる実践と課題 - 女子就学との関わりから
3. 学会等名 国際開発学会・人間の安全保障学会 合同研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小國和子
2. 発表標題 インドネシアの女子中学生にみる月経対処 / 管理の実態と「正しい知識」 学校教育とイスラーム規範に着目して
3. 学会等名 国際開発学会・人間の安全保障学会 合同研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐藤峰
2. 発表標題 ティーンの月経をめぐる大きな文脈と小さなやりくり 「もうひとつのニカラグア」での月経衛生調査を通じて
3. 学会等名 国際開発学会・人間の安全保障学会 合同研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 新本万里子
2. 発表標題 パプアニューギニアにおける月経衛生対処に関わる教育 と女子生徒たちの実践 月経のケガレと羞恥心をめぐって
3. 学会等名 国際開発学会・人間の安全保障学会 合同研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 菅野美佐子
2. 発表標題 北インド農村における月経をめぐる観念と実践に関する一考察 - 就学経験との関わりから
3. 学会等名 日本文化人類学会 第53回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 新本万里子
2. 発表標題 サゴテンブン抽出作業の役割分担 パプアニューギニア・アベラム社会の事例から
3. 学会等名 サゴヤシ学会第28回講演会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kanno, Misako
2. 発表標題 Shame and Pollution: Menstruation Practices among Female Students in Rural India
3. 学会等名 Hawaii Internationa Conference on Arts and Humanities (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 秋保 さやか
2. 発表標題 クメール農民の自律をめぐるモラルティ 内戦後カンボジアにおける農村開発の事例から
3. 学会等名 九州人類学研究会（日本文化人類学会九州・沖縄地区研究懇談会）2019年度研究発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akiho, Sayaka
2. 発表標題 Why do they grow “organic crops?” - Development and crop commercialization in Cambodia
3. 学会等名 Society for East Asian Anthropology (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akiho, Sayaka
2. 発表標題 Growing Khmer Products: Food Identities and Safety in Times of Globalization
3. 学会等名 The 2020 Annual Meeting of the Society for Applied Anthropology (Virtual Meeting (国際学会))
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Matsuo, Mizuho
2. 発表標題 Living with bodily contingency: Pregnancy Loss among childless women in West India
3. 学会等名 INDAS international symposium “Life and Death in Contemporary South Asia”
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Matsuo, Mizuho
2. 発表標題 Blood and Egg: Making relatedness in third-party assisted reproductive technologies (ARTs) in India
3. 学会等名 XI AFIN International Conference
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松尾瑞穂
2. 発表標題 The body in difference: 'naturalisation' of the communal difference in India
3. 学会等名 日本南アジア学会第32回全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松尾瑞穂
2. 発表標題 Sociocultural Practices Influencing the Medical Termination of Pregnancy in India
3. 学会等名 第71回日本人口学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松尾瑞穂
2. 発表標題 身体物質のやり取りから見えるもの サブスタンス研究の射程
3. 学会等名 日本文化人類学会京都人類学研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 杉田映理
2. 発表標題 ユネスコチャート：グローバル時代の健康と教育
3. 学会等名 日本学校保健学会 第66回学術集会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計19件

1. 著者名 杉田映理	4. 発行年 2018年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 638(500-501)
3. 書名 「インクルーシブな開発」国際開発学会編『国際開発学事典』	

1. 著者名 杉田映理	4. 発行年 2018年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 638(494-495)
3. 書名 「参加型開発」国際開発学会編『国際開発学事典』	

1. 著者名 小國和子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 638(86-87)
3. 書名 「文化的慣習とコミュニティ開発」国際開発学会編『国際開発学事典』	

1. 著者名 杉田映理	4. 発行年 2019年
2. 出版社 大阪大学出版会	5. 総ページ数 272 (109-138)
3. 書名 「国境を越えて助けることとは」渥美公秀・稲場圭信編『助ける』	

1. 著者名 佐藤峰	4. 発行年 2018年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 638
3. 書名 「身体と開発」国際開発学会編『国際開発学事典』	

1. 著者名 杉本良男、松尾瑞穂編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 風響社	5. 総ページ数 352
3. 書名 聖地のポリティクス ユーラシア地域大国の比較から	

1. 著者名 椎野若菜	4. 発行年 2017年
2. 出版社 古今書院	5. 総ページ数 216 (78-97)
3. 書名 「ケニアにおける「妻相続」慣習の言説とフィールドで見る現実のはざまで」。白石壮一郎・椎野若菜編『社会問題と出会う (F E N I C S 100万人のフィールドワーカーシリーズ 7)』	

1. 著者名 椎野若菜	4. 発行年 2017年
2. 出版社 古今書院	5. 総ページ数 190 (4-9、179-181)
3. 書名 「イントロダクション」「編集後記」。椎野若菜・福井幸太郎編『マスメディアとフィールドワーカー (FENICS 100万人のフィールドワーカーシリーズ6)』	

1. 著者名 SHIINO Wakana	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa Tokyo University of Foreign Studies	5. 総ページ数 51-58
3. 書名 The Daily Life of a 'House Girl' in a Nairobi 'Family'. Shiino W, Shiraishi S, Mpyangu CM (eds.) Diversification and Reorganization of 'Family' in Uganda and Kenya: A Cross-cultural Analysis,	

1. 著者名 粟屋利江・菅野美佐子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京外国語大学出版会	5. 総ページ数 336 (13-31)
3. 書名 「政治と開発」、粟屋利江、井上貴子編、『南アジアジェンダーハンドブック』	

1. 著者名 菅野美佐子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 旬報社	5. 総ページ数 392(280-289)
3. 書名 「インド社会とジェンダー：男と女の多様な社会関係」、本田量久・渋谷淳一編『21世紀国際社会を考える多層的な世界を読み解く38章』	

1. 著者名 Kanno, Misako	4. 発行年 2017年
2. 出版社 The Institute of Oriental Studies, Daito Bunka University	5. 総ページ数 245-252
3. 書名 “Discussion: Dealing with Gender Issues in South Asia” in T. Shinoda, T. Inoue and T. Suda (eds.), Social Transformation and Cultural Change in South Asia: From the Perspectives of the Socio-Economic Periphery.	

1. 著者名 秋保さやか	4. 発行年 2017年
2. 出版社 旬報社	5. 総ページ数 392 (260-270)
3. 書名 「農業技術の受容と変化ーカンボジアにおける農村開発プロジェクトの事例からー」、渋谷淳一・本田量久編『21世紀国際社会を考える 多層的な世界を読み解く38章』	

1. 著者名 小國和子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 244 (85-98)
3. 書名 「「考える農民」としての暮らしを支える多機能ワーク」、穂坂光彦他編『地域共生の開発福祉 制度アプローチを越えて』	

1. 著者名 新本万里子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 1964-1965
3. 書名 「マプリク」 秋山元秀・小野有五・熊谷圭知・中村泰三・中山修一編 『世界地名大辞典：アジア・オセアニア・極 トーン 』	

1. 著者名 志摩憲寿・杉田映理・花田真吾	4. 発行年 2017年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 180 (142-153)
3. 書名 「マサイ・コミュニティとSDGs」 『持続可能な開発目標と国際貢献 フィールドから見たSDGs 』	

1. 著者名 松尾瑞穂	4. 発行年 2019年
2. 出版社 風響社	5. 総ページ数 352
3. 書名 「インド・ヒンドゥー聖地の複数化する宗教資源とその正当性」杉本良男、松尾瑞穂（編）『聖地のポリティクス ユーラシア地域大国の比較から』	

1. 著者名 松尾瑞穂	4. 発行年 2020年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 304
3. 書名 石坂晋哉、宇根義巳、舟橋健太（編）『ようこそ南アジア世界へ 地域研究のすすめ』	

1. 著者名 松尾瑞穂	4. 発行年 2020年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 482 (109-135)
3. 書名 「呪術が禁止されるとき インドにおける合理主義運動がもたらす迷信としての呪術」川田牧人、白川千尋、飯田卓（編）『現代世界の呪術 文化人類学的探究』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	新本 万里子 (Shinmoto Mariko) (60634219)	国立民族学博物館・超域フィールド科学研究部・外来研究員 (64401)	
研究分担者	小國 和子 (Oguni Kazuko) (20513568)	日本福祉大学・国際福祉開発学部・教授 (33918)	
研究分担者	菅野 美佐子 (Kanno Misako) (80774322)	国立民族学博物館・南アジア地域研究国立民族学博物館拠点・特任助教 (64401)	
研究分担者	松尾 瑞穂 (Matsuo Mizuho) (80583608)	国立民族学博物館・超域フィールド科学研究部・准教授 (64401)	
研究分担者	椎野 若菜 (Siino Wakana) (20431968)	東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授 (12603)	
研究分担者	佐藤 峰 (Sato Mine) (20739784)	横浜国立大学・大学院都市イノベーション研究院・准教授 (12701)	
研究分担者	秋保 さやか (Akiho Sayaka) (40797164)	明治大学・研究・知財戦略機構・研究推進員 (32682)	
研究協力者	出野 結香 (Ideno Yuika)		